

那 霸 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成24年度第10回（定例会）

署名人 添石幸伸

委員長 城間勝

開催日時 平成24年8月21日（火）

開会 午前10時15分

閉会 午前11時15分

開催場所 那覇市教育委員会 第1会議室

出席委員 城間勝委員長、金城眞徳委員、添石幸伸委員、喜久里美也子委員、城間幹子教育長

議事日程

議案第14号 平成24年教育事務点検評価報告書の作成について（総務課）

出席職員

【生涯学習部】新城和範部長

（総務課）伊良皆宜俟課長、伊禮弘匡副参事、當間千明主査

【学校教育部】喜瀬乗英部長、宮内勇人副部長

（教育相談課）神谷乗治課長

傍聴人 1名

会議録作成 （総務課）仲間稔主査

城間委員長 ただいまから平成24年度第10回教育委員会会議定例会を開催いたします。本日の会議録署名は添石委員にお願いいたします。それでは議案第14号「平成24年教育事務点検評価報告書の作成について」説明をお願いします。

新城部長 提案理由説明

伊良皆課長 資料説明

城間委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

金城委員 24ページの青少年旗頭事業は、Bという評価ではなく、Aという評価があるかと思いましたが、地域への援助依頼ができない学校においては難しく、地域の皆さんの協力なしでは無理というところがあると思いますが、そういったところはもっと力を入れたらいいと思います。

城間委員長 金城委員のご意見に賛同するところもありますが、地域によっては、地域の方々と学校がパイプを作ってうまくいっているところもあるということを知っていますが、そうではない地域もあることは確かなようです。その辺も成功している事例等々あるので、担当課は青少年育成課と書いていますが、元々はその事業は市長の思いと、学校だけではなく地域の協力を活用するというのがこの旗頭の大きな目標と思いますので、学校だけではなく、地域が積極的に関わるようなパイプを作っている学校はたくさんありますので、ぜひ広げてほしいと思います。反対に大変、大変ということも耳にします。取り組みが少し弱いという地域にはどういう取り組みを、支援、援助をしているのか、お答えできるのであればお願いします。

伊良皆課長 元々この旗頭事業自体が、いわゆる遊び非行系の子ども達の居場所づくりということでやってきた部分があります。それが発展して今では全学校が取り組むという状況になってはいますが、1学校あたりの平均参加数というのは、だいたい20名程度で、まだ参加数が少ない部分もあるということも委員の中から意見が出されました。いまお話がありましたように学校の負担感というのが出てきていると、そういったものを解消する意味合いで、この旗頭の部分について目的意識をもっと明確にしてやっていった方がいいのではないかと。例えば、こちらの改善の中にもありますが、「バックヤードの見直し等、より明確に郷土文化への貢献と位置づけた変革を行うことが子ども達の郷土愛を掻き立て、参加する意欲の向上に効果的である」と、そういういろんな意見として出てきている部分があります。そういう意味では評価自体はされてはいますが、目的意識の明確化、それともう少し工夫してもらいたいという状況があります。

城間教育長 青少年育成課が担当していますが、指導者がいない、あるいは地域に旗頭がないという学校もありました。教育委員会としてはそれを繋ぐ、どこからでも指導者を派遣する。あるいは旗頭の修理費用の補助であるとか、そういったところで地域の力だけを待つのではなく、それをコーディネートする役目を教育委員会として持っています。それで、まだやはりAではなく、Bなんだろうなと思いますが、去年、セルラースタジアムでの世界のウチンチュー大会とコラボすることができて非常に良かったのですが、今年度もセルラースタジアムで開催されることになり、合わせて青年会議所と

のコラボもでき、取り組みとしては発展的な方向へ向いていると思います。今ご指摘のある課題等はどのようにしたら解決できるか。後ろ向きではなく、どうしたら解決して前に進めるかということを考えていきたいと思います。

金城委員

先生方の負担になるような行事になると発展しないと思うし、いろいろ障害があると思うので、できるだけ地域の皆さんの力を借りると大きな発展に繋がると思います。特に学校においては自分達で練習できるように枠を作って、枠内だと倒しても大丈夫なように、できるだけ各小中学校で枠のないところに早急にそこまでやってあげると先生方の負担も少しは減ると思いますが、自分勝手にさせたら今度はケガをする恐れがありますので、やはり目の届くようなところに、そういった練習の枠の設置をしてあげると1人、2人の指導者で大丈夫じゃないでしょうか。そういう環境を作ってあげたらいいと思います。

喜久里委員

13ページの公民館活動の件で、以前、東京の日本科学未来館にあるプラネタリウムを見ましたが、星の誕生とか映画のような見応えがあり、また、ボランティアの人の整理の仕方とか、集客が観光的資源として動いていました。那覇市もいい場所にあるため、プロの業者にすてきなメニューの作成や、たくさん来場した際のボランティア等々、いろいろ考えられるので、もっと発展していくと思います。実際にプラネタリウムを見ましたが、沖縄の音楽が流れ、琉球の船が出てきたことにはロマンを感じましたが、更にすごいものを見てしまうと、もっといいものにしていただきたいということで期待したいと思います。場所は良いが講座数が少し落ちているということですが、那覇市のテンプス館も那覇市の施設が入っていますが、あちらはなかなか集客ができないということをFM放送局と一緒に連携して、毎週テンプスをアピールする時間があるって、それを聞いて来るということでもうまい具合に連動しています。ラジオでなくてもいいですが、何らかの形で広げていけたらと思います。

伊良皆課長

プラネタリウムのメニューの件ですが、今回一括交付金を活用して自主制作をしようということで今年度予算化をしています。年間2本程度、そういうような形でいま実施をする方向で進められています。

新城部長

この事業についての評価が内部評価から外部評価へ一段階下がっているということですが、これは、ある意味でこの施設のもつ潜在力といえますか、可能性を活かしきれていないだろうということだと思います。従って将来そのところをぜひいまおっしゃったようなことを含めて活用してほしいという、そういった意味での評価と理解しています。利用者数は増えているということは確かです。しかし講座数が少なくなったということもマイナスの評価がありますが、そういったことからしてこの施設が持つ地理的な優位性、それから施設のもつ機能性、そういったものを今後ぜひ高めてほしいというような期待感を含めての改善となっていますので、そのところは努めていきたいと思います。

金城委員

20ページの就学指導委員会事業で、特別支援を有する子ども達が自分の校区には満杯で入れない。そのためによその学校へ行かざるをえないということはありませんか。

例えば、石嶺小学校は30名近く特別支援の子ども達がいて満杯状態で、そのために隣の学校の支援学級へ行きなさいというふうなことはありますか。

城間教育長 学校内の特別支援学級は、年度当初に特別な支援を要する子どもとして学級編成をします。いま金城委員がおっしゃるのは途中からの転入、途中から希望している子どもですか。

金城委員 途中ではなく4月の最初からです。

城間教育長 いっぱいだからというよりも、その子どもの状態に応じた学級がここでは開設できないので、隣の学校へということは有り得ます。

喜瀬部長 8名が1学級の枠で、8名を超えると申請してもう1学級増設できます。ですから3月時点であれば学級は増えますし、ただ教室が設置できないほどクラスが多いのか、というところがありますが、基本的には収容できる状況での制度となっています。

金城委員 城東小学校にその専門の資格をもっていらっしゃる先生がそこにはいるから、そこへ行った方がいいと言われたということです。

城間教育長 そういふご案内はさせていただいています。

金城委員 毎年支援学級が増えつつあるような傾向にあるのですか。

城間教育長 支援学級が増えるのは、特別支援教育の制度が変わって増えました。今年、那覇市内で17学級増えました。ということは良いことです。つまり、これまで1学級だったのが2学級になった。17学級増えたということは、もちろん子ども達の絶対数も増えたことでもあります。手当てができるようになったということで17学級増えたというのは良いことだと思います。もう1つは、特別な支援を要する子ども達に対して教育が、あるいは全体が目を向けるようになった。単なるウーマクーではなく、この子どもの場合はこういう症状があった。特別な支援をした方がいいというふうに振り分けたために増えたという可能性はあるわけです。

金城委員 この子ども達は小学校で8名で4クラスあるとしたら、中学校でも8名の4クラスがそのまま設置されますか。

城間教育長 具体的にその子どもの抱えている状況が違うので、その中で特別支援学校へ行く子どももいます。

金城委員 判定の結果ですか。

城間教育長 判定の結果ですが、中学校はあまりいないです。

金城委員 学級が減っているのですか。

城間教育長 減ってきているよりも親御さんの希望で普通学級へ入った。普通学級でその子どもに社会性を身に付けさせたいということで、特別支援学級の方がいいけれども、普通学級でお願いしますという方もいます。親御さんの選択、強い意向が反映されます。ただ、社会全体で特別支援が増えているという、そのこともあるかもしれませんが、我々の見る目が、手を差し伸べようとする目のおかげで特別な支援ができるというふうに捉えることもできます。

喜瀬部長 先ほどの金城委員のお話の中で他校に行くシステムとして通級というのがあります。

これは特別支援学級、あるいは普通学級にいる子どもですが、その子どもの症状に対して専門的な指導ができる先生がいらっしゃる場合に週に1回、向こうへ行って学習をしたりという通級という制度もあるので、それを活用しているかもしれません。

城間教育長 いずれにしてもいまの状況をより具体的にお聞きし、後ほど詳しく説明します。

金城委員 親御さんも向こうへいくこと自体反対ではないし、気持ちよく隣の学校へ行って苦痛にはなっていないということですが、ただそんなにたくさん子ども達がいるのかと、大変だなということでお聞きしました。

添石委員 個別の事業の評価等に関しては、一つ一つ捉えると時間がないと思いますし、今日はこういう場ではないと思いますので、私自身も情報収集と勉強をしながら一つ一つの事業について課題等より良くなっていくために、施策について今後も関わっていきたいと思います。総合的な感想、意見ですが、AにしろBにしろ、すごく努力されていますし、またそれぞれの課題というのはあると思いますが、ややもすると内々の評価で、外部の評価もありますが、やはりどこかで自己満足的なものに終わってはいけないというものがありますので、一つ一つの課題の改善策というものを今後とも積み重ねていく必要があると私は思います。どうしても法律とか行政の仕組みの中で物事を進めていく、その中で仕事をせざるを得ないでしょうけれども、やはり法律とか行政の仕組みの中で解決できない、いま話している繋がりの中であったり、地域の連携にしろ、本質的な課題の解決という部分で、法律や行政の仕組みで解決できないところを解決していくためには関わっている人の精神的なゆとりであったり、しっかりと向き合って話をする原始的なアナログ的な仕組みというか、場づくりというものも教育委員会として今後の課題と感ずるところです。もう1点は、これだけのすばらしいことを教育委員会ではなしている。一つ一つの事業にたくさんの方々関わって努力をなしている。ただ、これが市民の方にどう伝わっているのかということです。私自身は教育委員会に入って初めてこんなことをやっているということではわかっているつもりですが、やはり一般の市民の方は、教育委員会は何をしているかわからないし、報道においてはいつもバッシングされるようなことしか出てこない。でも、片一方において教育委員会ではこれだけのすごいことに取り組んでいるということはどう発信する、わかってもらう機会づくりというのはできないのだろうか。やはり、これだけのすごい行政サービスがあるわけです。以前、翁長市長が、やはり人というのは水と空気は当たり前のように、また行政サービスというのは当たり前を感じている。それが無くなったときの怖さというか、無くなることの怖さがわかってない。やはり教育行政はどういうことに取り組んでいて、身の回りにこういうサービスがあるということはどうにか周知できるようにやってもらうことはできないのかと思う。そうすれば職員も頑張っているのだから、ぜひ地域の方も、そして協力できる方、企業も含めてみんなで何かできませんかという発信をもっと力強く提案していてもいいのかなとすごく感じました。

城間教育長 いまの添石委員のお話を聞いて力がわきました。今のような方向で市民の方へ発信

できるように、これはホームページに掲載しますが、その他に広報する方法はあるかどうか考えてみたいと思います。

新城部長

この教育事務点検評価報告書ですが、これは平成19年度に法律が改正されて、教育委員会の事務を点検し評価して、それから議会の方へ報告、そして市民へ公表ということが制度としてあります。その背景としては、ある自治体の不祥事です。そういった中で閉鎖的な教育委員会ということの位置付けが社会的な急務としてありました。そういった中で制度を改正されてということでこのシステムができています。そういった意味では教育委員会にとっては転換点になったということになりますが、これをいかにして外のほうに情報として流せるかという1つの方法は議会への報告ですから、この議会への報告、過去この報告に基づいて質問が2件ほど出ています。それから市民への公表もやっていますので、いじめとかその他の課題を抱える中で教育委員会制度そのものについての意見も出てきます。これについては今後も存在意義が高まっていくだろうという期待があったとともに、おっしゃるような市民への説明責任を果たすとともに、広く情報提供ができるようにやっていきたいと思っています。

城間委員長

8ページの外部評価委員の方々のまとめがありました。課題が4つあるということで、2のところ、「図書館司書、社会教育主事の人材育成、増員を望みたい」とありましたが、これはどう対応していくのかということ。それから9ページの4のところ「なはのこガイド」。これは私の知り合いの女性がとてもすばらしいということで、すごく重宝し活用していますということでした。800冊を印刷したということですが、増刷は不可能なのか。予算的に無理なのかどうか。もう1つは23ページの教育相談支援事業で、現職のころに私のところの子どもが何名かお世話になって、いま高校2年生か3年生で頑張っているようですが、ここには76.5%の改善率が見られたという説明はありますが、当時の総合青少年課の担当の先生方の地道な努力と労を惜しまない努力というのは今でも頭に残っています。どの学校も年間を通して訪問していたと思いますが、それをいまもやっているのでしょうか。

伊良皆課長

1点目の社会教育主事関係ですが、この件については主管課で検討している状況です。今回、25、26、27の実施計画の中でも予算要求という形で検討はされているところです。それから「なはのこガイド」について、主管課が増刷するかどうかということを私どもの方で把握していない状況です。ただ、インターネットの著作権関係がクリアされるということであれば、増刷するよりも多くの市民の方が容易に入手できるような方法としては最適と考えますが、ただ、それも確認は取れていませんので、すいませんがこの場ではお答えできない状況です。

神谷課長

教育相談支援事業の件ですが、54校すべてに入れてもらって現状把握をしています。その後も定期的に学校訪問をしてフォローしています。

城間委員長

人数的には増えつつあるのですか。

神谷課長

はい。だいたい1,000名ほどを教育支援相談員が支援しています。

新城部長

社会教育主事の件ですが、社会教育主事というのはご承知のとおり教育行政の組織

の中で指導主事と社会教育主事という特徴のある職種となっています。社会教育主事は資格職で研修が必要ですが、去年は幸い県外ではなく、県内での資格取得の講習会の機会があり、生涯学習課から1人参加して資格を取得しています。いま公民館の副館長として配置されています。今年度、県内で研修が実施されるか確認していませんが、そういった機会に社会教育主事を増やしていきたいと考えています。

伊禮副参事 図書館司書関係で補足します。那覇市の学校図書館には司書資格を持つ本務職員を採用し、各公共の図書館にも異動等で各館に1人は司書資格者を置いています。その他については非常勤で司書資格を有している方を配置しています。学校図書館に関して言いますと、資格を有している方を、更に本務を置いているというのは、全国的にも充実している方です。通常は置いていないか、あるいは非常勤ということで、那覇市は全国的には充実している方です。

城間教育長 社会教育主事で、これは私の願いですが、教員にも社会教育主事の免許取得者を増やしたいと考えています。社会教育の視点をもった学校運営、学級経営等々というものに非常に有効な部分があります。ただ、その時期であるとか、今年も県内で行われるというのは県からの情報で聞いてはいます。具体的に何時という、そういった情報が入りましたら学校の方にも情報を流していきたいと思います。

金城委員 8ページの4つの課題で、近ごろ社会的に大きな問題になっています、いじめによる自殺。那覇市でも一生懸命取り組んでいるとは思いますが、何とか沖縄からそういったのを無くせるように一致団結して頑張らないといけないような気がします。その辺はいかがですか。

喜瀬部長 いじめに関する問題というのは大変難しい側面があります。いじめというのは大きな犯罪、あるいは即自殺に結びつくというような形の捉えができてつある側面を抱えています。そのために学校の中でいじめに対処して子ども達や保護者へ指導したときに、自殺に結びつくような大きな犯罪という捉え方をすると、いじめではなくケンカであると。いじめを指導したことに対する反発が起こったりすることがあります。沖縄県からいじめ対応マニュアルが出ています。いじめに対してどのような処置をすればいいのか、いじめを発見した場合にどのような手順で進めていくかということがありますが、これを改めて作り直すというよりも、那覇市の方にも県のマニュアルをいかに活用するかという視点で、県に追加する形で利用の仕方を今から作っていかうことを確認しているところです。個々の学校の問題についても、これまでいじめが何件あったかということはあるんですが、個々の問題については件数しかなく、具体的ないじめにどう対応したかというような把握としては不十分なところがあります。大きなものに関しては報告がありますが、そういった意味ではアンケートの形、具体的にどういういじめが起きたかというのは報告がきて、これは課題が大きいのかどうかというのは一緒に教育委員会が考えることができるようなシステムにしていきたい。ですから新たな形で大きなものに取り組むのではなくて、教育委員会と学校、その場だけで捉えるのではなく、広い目でいじめを捉えて、それをどう対応すればいいかー

緒に考えて状況を作っていきたいということで考えています。

城間教育長 先日、議会の教育福祉委員会の方でも大津の事件を受けて、私以下、担当が呼ばれ、那覇市ではどう取り組みをしていこうかということでの提言があり、それから我々に対する注文があり、そういった場面がありました。それを受けていま部長から話のありましたように、那覇市教育委員会としてはいろんな対応を現在練っているところです。新学期は始まりますが、明日も校長会がありますので、私の方から校長に対してそれに触れて話をしようと考えています。いじめが何件あった、10件だから多い、1件だから少ないではなく、その数とかではなく、起きたときにどう対応したか、どのような結論になったのか、どのように子ども達の落ち着きを見たかとか、そういったことを大事にしていけるような取り組みをしていきたいと思います。本日、この会議終了後に教育委員の皆さんには時間をいただいて、それに関する勉強会を予定していますので、具体的にはそこでまたお話ができればと思います。

金城委員 先だっの新聞に、全国で学力が最下位ということがありましたが、これも課題の一つに入れることはできないでしょうか。その学力向上に対する取り組みがマンネリ化しているようなので、何とか新しい風を吹き込む方法はないでしょうか。

城間教育長 おっしゃるとおりで本当に大きな課題です。学校という学びの場所ですと学力を向上させるというのは永遠の課題、大きな目標です。ですが、いまこの教育事務点検評価の部分には触れないというよりも、触れてないというか、この会議のどこかで、また学力問題に対しても議論を交わしたいと思いますが、いかがでしょうか。

金城委員 ただ課題としてあげるべきではないかと思います。

城間教育長 この課題は、事務点検の評価委員会の皆さんが指摘してくれた課題です。我々があげた課題ではないです。

金城委員 では21からもっと増やしていけばよかったかもしれません。学力の問題にしても、いじめ、自殺の問題、21ではなく、もっと増やせばよかった。

城間委員長 今の問題は、今年、24年度の評価があります。その時に議論をして、どういう項目を入れるかどうか。確かに学力の問題というのは大変大きな課題。沖縄は学力というと毎年最下位です。それについては今年の、平成24年度について議論しても構わないということですか。

新城部長 いまご指摘の事項については、来年度、報告する部分に入ってくるかどうか、これから事項を抽出します。そういったところの提案をしながら更に皆様のご意見をお聞きして、平成24年度の対象事業として組み込めるかどうか検討します。

城間委員長 それでは他よろしいでしょうか。8ページ、9ページに外部評価委員の方々のまとめがあります。ぜひ前進させるような取り組みを事務局はやってほしいということ要望して、議案第14号「平成24年教育事務点検評価報告書の作成について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員 異議なし

城間委員長 議案第14号については議決確定します。以上をもちまして、平成24年度第



10回教育委員会会議定例会を終了します。